

自然エネルギー大学リーグ、 大学等コアリシヨンにおける 人材育成の取組について

2022年1月21日 千葉商科大学公開講座

千葉商科大学 基盤教育機構 准教授 浜島直子

大学等コアリションとは

参加大学等の持つ「知」を結集
カーボンニュートラルの実現に
貢献する



- 正式名称:「カーボン・ニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」
- 文部科学省・環境省・経済産業省が2021年7月に設立したプラットフォーム
- 参加機関:179機関(2022年1月現在)※他に協力機関等12
- 5つのワーキンググループ設置
 - ✓ ゼロ・カーボン・キャンパスWG
 - ✓ イノベーションWG
 - ✓ 人材育成WG
 - ✓ 国際貢献WG
 - ✓ 地域ゼロカーボンWG



<https://uccn2050.jp/>

人材育成WGにおける取組

- 幹事大学: 東海大学、三重大学、宮城大学
- 構成員は主に教員・研究者
- 参加機関: 78機関(2021年10月現在)
- 当面の活動目標:
 - ✓ カーボンニュートラル達成に必要な人材像・育成方法の整理・検討
 - ✓ 大学間連携での共同教育プログラム・教材開発
- 直近の活動状況:
 - ✓ 事例共有に向け、構成員へのアンケート調査
 - ✓ テーマ別の事例共有会等を実施中



事例共有会
に90名以上
が参加

①全学必修科目を通じたシティズンシップ育成 ～持続可能な社会づくりに参画する意識と方法

- ・ 4科目・各1単位を**必修化**(2018年度～、以下は2022年度～開科科目)

シティズンシップ (現代社会と市民)	多様な人々・様々な問題 自身の当事者性・関心と共感
シティズンシップ (社会参画の意義)	社会を変える具体的な方法 自身の力・可能性
地域理解	地域課題の発見 自身を含む多様な人々の共創
国際理解	多様な他者との共生と共創に参画する グローバルシティズンシップ

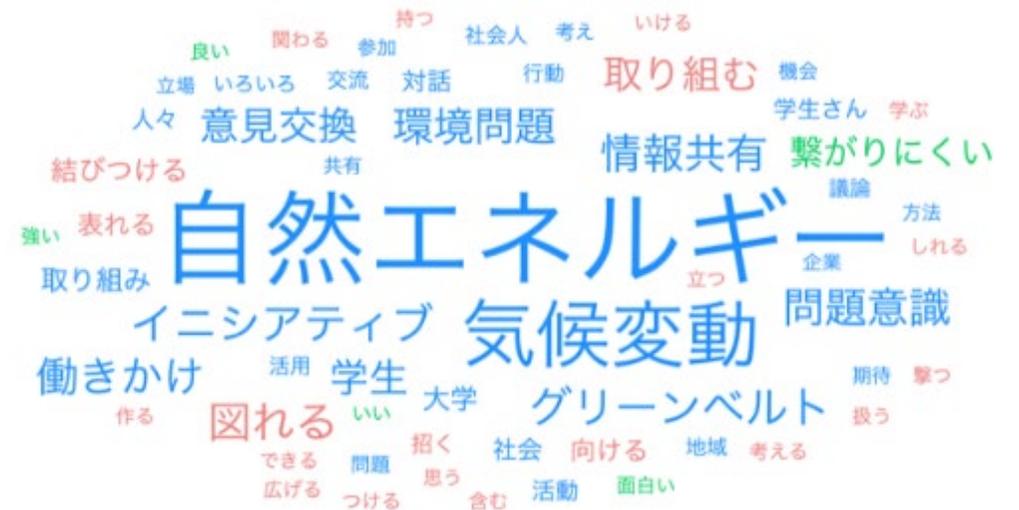
- ・ **社会的実践力・市民性育成への導入**
- ・ **複数学科混合**クラス編成・各50-60名・85クラス(湘南キャンパス)
- ・ **全学の多様な教員**が担当、スチューデントアチーブメントセンター教員が**ガイドブック・FD**等を提供



発表例(東海大学)

自然エネルギー大学リーグ「学生会員」

- 大学の自然エネルギー100%化を進めたい学生が加入
- 「学生会員」の意義(大学側にとって)
 - ✓ 省エネの実践: キャンパスで生活をするステークホルダーである学生の理解・巻きこみ
 - ✓ 設備投資の意義づけ: 教育効果等を加味
- 会費の代わりに「決意表明文」を提出
- 会員数: 36人(2022年1月現在)



“リーグに期待すること”ワードクラウド

- ※“交流”“繋がり”への強い期待。
- ※ 学生同士のみでなく教職員との繋がりができることに期待する声も。

自然エネルギー大学リーグ「学生会員」つづき

□ 主な活動状況

- ✓ 2021年8月にオンライン顔合わせ会を開催し、事例の共有やアイデア出し
- ✓ インスタでの情報発信
- ✓ 「学生活動マップ」作成に向けアンケート調査を実施中
- ✓ 月に1～2回、コアメンバーや全体での打ち合わせ



2021.8.13 顔合わせ
& アイデア出し会



“学生活動マッピング”イメージ

例1) 学生生活動開始事例(東京外大)

- リーグ立ち上げ時、講義にて学生会員を募集
- 林佳世子学長との意見交換を経て、組織化
=(「たふえね」として活動開始。メンバー拡大。)
- 施設管理の方からもエネルギー関連データを頂くなど連携関係
- 主な活動状況
 - ✓ 学生広報主催の“SDGs座談会”への参加
 - ✓ メンバー学生がデザインしたステッカー貼付
 - ✓ 地域のボランティア団体プラットフォームとの意見交換



シリーズ「#SDGs×東京外大」第1回「SDGsクロストーク」

<https://wp.tufs.ac.jp/tufstoday/students/21121001/>



ステッカー貼付

例1) 学生生活動開始事例(東京外大)つづき

□ 大学のカーボン・ニュートラル計画に位置づけ。

カーボンニュートラルに向けて



目標

教職員・学生と協働で地球温暖化対策を推進し、大学が使う全ての電力について、2030年度までに自然エネルギー電力へ転換(生産又は調達)することを目指す。

計画・取組

●再生可能エネルギーの活用に向けた取組

(1)太陽光発電等の導入の推進

設置可能な建築物屋上等に太陽光発電設備を設置することを目指す。

- ・アゴラ・グローバル(約94kw)、研究講義棟(約20kw)、屋内運動場(約45kw)

※全体約159kw(数値は2021年7月調査・検討による)

(2)新築・既存建物大規模改修における整備

本学が新築、既存建物大規模改修(内外装全体改修程度)においては、太陽光発電設備設置を推進する。

●電力の調達や機器の購入・使用に当たっての取組

(1)再生可能エネルギー電力調達の推進

●学生団体の活動“たふえね”

本学、教養科目のひとつである「環境・エネルギー問題の動向と展望」を2021年春学期に受講した学生の内、環境問題や省エネ・再エネに関し活動すべく、有志を中心に学生団体“たふえね”が立ち上がった。大学の正式なサークルとして、2022年春頃の申請を予定している。活動としては既に行っており、自然エネルギー大学リーグへの学生会員への入会・参加や他大学学生との情報交換、また、教室の照明消灯を促すステッカー作りを自らデザインを考え作成する等、積極的な活動を行っている。

現在10数名の学生有志で活動しており、今後活動の輪を広げ、本学約4,300人の学生へも波及していくことで、省エネに対する意識や環境問題への取組が全学的に進められることが期待できる。

●建築物の建築、管理等にあたっての取組

(1)建築物における省エネルギー対策の徹底

<http://www.tufts.ac.jp/abouttufts/outline/eco.html>

例2) 学生交流事例 (CUC x 慶応義塾大学)

- リーグ学生会員である慶応義塾大学学生の希望で、SONEとの意見交換会を実施
- 千葉商大に来校し、屋上PVパネルの見学も(施設管理の方から説明)
- SONEから活動状況を発表し、質疑・意見交換

